



新生

第 47 巻 号
夏 新 生 会 広 報

神の爲したまふところは皆その時に適ひて美麗しかり神はまた人の心に永遠をおもふ
の思念を賦けたまへり 然ば人は神のなしたまふ作爲を始より終まで知明むることを得
ざるなり。

—傳道之書 第3章11節—

He hath made every thing beautiful in his time : also he hath set the world in their heart, so that no man can find out the work that God maketh from the beginning to the end.
—ECCLESIASTES CHAPTER 3-11—

全ての出会いに感謝 本間昭人

私の人生を振り返ると、今の自分があるのは様々な成長期における環境と、そこで出会った影響力の強い方々から肌で学んだ貴重な体験と、揺るぎ無い信頼関係から形成されたとつくづく還暦を過ぎた今、幸せだったと感謝の念に堪えません。

まず第一に、産声をあげてから現在までずっと良き相談相手であり、酒の呑み方から肴の調理まで指南してくれた、母方の叔父たち、そしてその叔父たちの影響で小学三年の時に入隊し、現在まで活動を継続しているボーイスカウトに関しては、恩師とも言える隊長の存在や、自分自身が隊長として育ててきたスカウトたちや全国の指導者の仲間たちとの交流、海外のスカウトとのふれあいので培った友情やグローバルな感覚で身体の半分が形成されました。

では、残りの半分はと申しますと、生まれ育った地元、東京青海市の住吉様のご祭禮にどっぷりと浸っております。本年も五月二日の町内曳きと宵宮に始まり、三日の本宮まで、各町自慢の一二台の江戸型の山車が旧市内を曳行され「喧嘩囃子」と称される江戸囃子と露店から漂う香りに二五万人が酔いしれました。母のお腹の中にいた時から、祭り囃子

聞いて育ち、住吉神社のお膝元、宮本の囃子連として肩を風を切って「粹でないせいでイイ男」を貫く為に現代では考えられないほど厳しい上下関係と技術伝承の中で選ばれて、誰もが憧れる宮本の連長を目指して、時には仕事や家庭を犠牲にして、一年間のたった二日間の為に老いも若きも町内一丸となって魂を燃やし尽くす世界に身を投じたら嫌でも人柄も男気も磨かれる訳で、私の心技体のすべてが完成されました。

そしてそこには必ず人と人との絆や礼節、義理人情、恩義、感謝といった忘れかけられている日本の良き風習が存在し、その経験こそが私の全てであり、財産でもあり、道標といっても過言ではありません。

残りの人生、この新生会での新たな出会いを大切に、自分を更に成長させ、磨いていきたいと思えます。

本間昭人

一九六一年東京都青海市生まれ。
三〇年間、民間企業で、エンジニアや不動産開発を担当。
二〇一一年、茨城の社会福祉法人の常務理事として就任。地域に密着した法人運営を基本に、民生委員や保護司としても活動し、現在に至る。



永遠の平和

天界の平和をおもう

愛にまたたく星と星

幾億年をつらぬく統一

地上の平和をおもう

清き流れ、かがやく光

かおる花、おどる魚

ああこの青空

ああこの大地

人間の名のために

永遠の平和をねがう

後藤静香著
『天よりの声』より



原 慶子

恵みのもとにあるあなた方

「あなた方は律法のもとにあるのではなく、恵みのもとにあるです。」

英語で言えば

〔since you are not under law but under grace〕（ローマ六章一四節）

この聖句のキーワードは、「律法（law）」と「恵み（grace）」です。

あなたの生は、「律法」のもとにありますか？あるいは「恵み」のもとにありますか？そんなことは考えたことはありませんか？もし考えたことがなければ、あなたは「律法」のもとで安んじ自負しているのです。

わたしは「恵みのもとにある」ことを信じて生きているので、個人的には感謝の内に（聖霊を感じて）生活しています。仕事の（主人公は新生会）にも、律法ではなく「神のみ旨」を基に新生会コミュニティの成長のために働いています。

この三、四年、世界中はコロナパンデミックの影響を受け、神キリストイエス―聖霊の「恵み」を忘れ「律法」に服従してきました。今では、神の恵みはどこへやら、善も悪も律法に服従しています。デジタルテク

ノロジー資本主義という律法はまやかしの正義のように人々の生活にも価値観にも浸食しています。

二〇二四年度―新年度を迎え、私たちにも悪い律法の誘惑があることが分かりました。久しぶりに憂鬱になり、聖書を繙きました。

「しかし今は、わたしたちは、自分を縛っていた律法に対して死んだ者となり、律法から解放されています。」

その結果、文字に従う新しい生き方ではなく、霊に従う新しい生き方で仕えるようになっていくのです。」（ローマ七章六節）

この聖句のキーワードは、「霊」と「文字」です。「霊」は目に見えず、人間の魂が感じるものです。「文字」は目に見えるものであり、人間の理性によって内容が表現されます。従って律法も文字によって規範が示されます。

律法は道徳的な基準ともなり、法律にもなりますが、それは時代状況によって時の主権者によって悪ともなり、善ともなります。悪いことが良くなったり、善いことが悪くなったりします。新生会コミュニティに集うお一人おひとり、あなた方は、「霊に従う新しい生き方〔the new way of spirit〕」で仕えているのです。共に神の恵みのもとにあることを信じて前進いたしましょう！！

社会福祉法人新生会に招かれ、創業の精神であるキリストの愛にもとづく高齢者への奉仕の一翼を担う機会を与えられました。これまで長い間キリスト教学校で働いてきた私にとって新たな出発となります。

教育も福祉も近代日本における創始期に共に揺るぎない創立・創業の精神に基づいて始められ、託された使命を果たしてきたという共通点があるように思います。この理念に導かれて新生会も今日まで人間福祉というかけがえのない奉仕のわざを続けて来たと考えます。この榛名荘・新生会創業の精神を堅持し、更に発展継続していくために遣わされたということを重く受け止めています。社会福祉という愛の共同体を実現する現場で良き出会いと奉仕の機会が与えられることを切に願っています。

新生会に来て新島学園で学んだ人と出会い、ふと新島襄のことを思い起こしました。新島襄は一八六四年二二歳の時に国禁を犯して函館から海外に脱出しました。彼は自由を求めてアメリカに行く志を立てたのです。後に彼の志は個人的な意志を超え使命、ミッションとなる神からの内的促し(召命)を受けたと思うのです。

聖書には神からの召命を受けてその使命のために生きた人のことが書かれています。行先もわからないまま故郷を旅立ち、イスラエルの父祖となったアブラハム。クリスチャンと迫害している最中に復活のキリストと遭遇して内的変容を遂げ、伝道者となり命がけてキリストを宣べ伝える生涯を送った使徒パウロなどがあります。彼らの召命の背後には神の計画としてのビジョンがありました。聖書で言うビジョンは神が人間

正男先生の不屈の生き方にも神の御心に従って生きるという信仰がありました。私は新島襄や原正男先生に働きかけた神の御心は、わたしたちキリスト教社会福祉施設に携わる者にも働きかけていると思います。私がキリスト教学校に学んでいた高校生の時、ネパールで結核撲滅の働きをされていたクリスチャン医師岩村昇先生の講演を聞く機会がありました。岩村先生は「山の上にある病院」というテーマでネパールの

論壇

ミッションに生きる新生会

有料カルチャーホーム恵泉園 園長 杉山 修一

にご自分の御心を示すという積極的な意味があります。新島襄は海外に脱出したとき、まだクリスチャンにはなっていないが彼は神の御心に動かされ、そのために生きようという決意したと思うのです。新島にとつて単なる自己実現や理想の実現などではなく、本人も気づかず、知らないところで彼を用いようとなさる神の御心、ご計画が働いていたのではないかと思うのです。

人々との暮らし、また、結核に關しての働きについて話されました。すごい!!、こういう人もいるんだと驚いたことを思い出します。後年岩村先生はある大学で講演された時に「私一人がネパールに行ったからと言ってネパールに結核の患者がなくなるわけではない。しかし、私が行くことで、たとえ一〇人でも結核の人が癒やされるならば、私がネパールに行く意味がある」と語られました。この言葉は私に、どのような小

さなことでもそれを使命として取り組むなら、そこにはかけがえのない意味があるということを教えてくれたのです。

先日転倒して脳挫傷のために病院で治療を受けているホームの方の傍らに寄り添って祈っていた時、神は私にも果たすべきこれからの使命を示しておられると思えました。そして自らの内面、魂に働きかけて促しを行う神の御心、使命を大事にしなくてはならないことを改めて知らされました。そしてキリスト教社会福祉施設である新生会での奉仕を通じて出会う一人ひとりと向き合い、祈りとともに愛にもとづくケアを実践することが限りなく大切なことなのだと思えます。

榛名荘・新生会創業の精神をこれまで現実化し実践してきたパイオニアである恵泉園はこれまでの養護老人ホームから有料カルチャーホームへと大きな変貌を遂げて新たな出発をすることになりました。変わりゆく社会、移りゆく時の中で変わることのない神の愛にもとづく奉仕という、尊い使命を新生会に連なるすべての人々と共有し実践してまいりたいと思えます。

新生会の創業者である敬愛する原

特集

地の塩・世の光として、《神の愛》に根ざす協働体であること

『肉の思い』と『霊の思い』

原 慶子

共愛学園寄宿舎の六年間

共愛学園は一八八八年、前橋市に創立されたキリスト教の女学校でした。女子教育に対する関心をもつ人が少なかつた時代、女子教育の必要に目覚めた数人のクリスチャンがおりました。共愛学園七〇年史（昭和三四年発行）にこの様に記されています。

「そうした時に当たって、郷土の先覚者新島襄の教化影響によって早く基督教を信仰した人たちは、国を憂い、同胞を愛し、教育の急務を知った。かれらのうち数名の識者は、当時殊に忘れられていた女子教育に着眼した。これは正しい、賢明なことであつた。人は女子によって生まれ、女子によって育てられる。人を作ることは、女子の最大の任務である。人の出来不出来は、多くその母の人物にかかわりをもつ。偉人に賢母があり、悪人は多く愚母をもつ。されば女子教育は国民を作る一大事業である。偉大な国民は賢明な母によって作られる。次代国民の素質の水準は当代女子教育のそれによって定ま

る。そこに女子教育の重要性がある。」

私が共愛学園中学校に入学したのは昭和三二（一九五七）年四月、一二歳になったばかりの頃でした。校長は周 再賜先生（一九二六〔大正一四〕年〜一九六四〔昭和三九〕年まで校長職）でした。周先生は、教育の三分割すなわち学校、寄宿舎、家庭を子供たちにとつての教育環境としていました。私は入学と同時に寄宿舎に入り、高校を卒業するまで六年間、寄宿生として過ごしました。当時の共愛学園は通学生と寄宿生、合わせて六〇〇人が学ぶ小さな学校でした。周先生は寄宿教育を大切に、校内に住んでおられましたから、私たちは毎日周先生と言葉を交わし、周先生のことを「閣下」と呼び、まるでお父さんのように慕っておりました。寄宿舎の生活は大変規則正しく、五時半起床（冬季は六時）、登校七時半。八時には学校での朝拝、学校から帰舎して就眠九時までスケジュールが決まっていました。一見自由時間がないような生活でしたが、教師と生徒の間はニックネームで呼び合う位、今思えば恵まれたものでした。生活は規則通りいそいそと、しかし各々の子どもたちの個性を尊重していましたから気持ち的には窮屈ではなく、伸び伸びと毎日を

過ごしていました。共愛学園を卒業して半世紀以上になりますが、今でもあの六年間は、私の人生の土台を築いてくれたのだと感謝しています。

共愛学園は、前橋市岩神町から駒形に移転し、現在はこども園から共愛学園前橋国際大学まで男女共学の一貫校となっています。先日、共愛学園小学校、校長・大川 義先生を訪問しました。大川先生は学園長（総長）も兼務されています。校長室で歓談していたら、子供たちが担任の先生と一緒に大川先生に会いにきました。大川先生は子どもたちを温かく迎え、おしゃべりに余念がありませんでした。共愛学園は大きくなりましたが、大川先生を通して、私が小さかつた頃の共愛学園と同じように、自由で子どもたちの個性を愛をもって見守る学び舎なのだと思惑して、私は真底幸せな気持ちになりました。

凡てのものと相働きて益となる

『事実、肉の指図のままに生きる者は、肉のことを思い、霊に従って生きる者は、霊のことを思い、肉の思いは死であり、霊の思いは命と平和です。なぜなら、肉の思いは神に敵対し、神の律法に従わない、いえ、従うことができないからです。肉の指図のままに生きている者は、神に喜ばれません。しかし、神の霊があなたに宿っているかぎり、あなた方は肉の支配にあるのではなく、霊の支配のもとにあるのです。』

（ローマの人々への手紙八章五〜九節）

共愛学園寄宿舎の二四時間の決められた時間配分の規則正しい生活の中にあつても私たちの気持ちは伸び伸び安心感に満たされていた―それは子どもたちの健やかな成長を願つた（祈つた）上のことであり、空気のように見守る先生たちがいたからだったと思います。

あれから五〇年以上の歳月が経ち、今や世界中は新自由主義イデオロギーにより、人間の精神まで物象化され、その上コロナパンデミックを機に行政指導という命令事項に人々の心は束縛されています。聖書的に表現するなら「肉の思い」に支配されているのです。自分は正しく生きていると信じている人々でさえいつの間にか「肉の思い」が先立っていることに気づかないのです。その位「肉の思い」は社会的に正当化されています。私は世の中や人々が物象化すればするほど、次の聖書の御言葉を思い起こします。『神を愛する人々、すなわち、ご計画に従つて神に召された人々のために益となるように、すべてが互いに働き合うことをわたしたちは知っています。』この聖句は先代理事長・原 正男が様々な困難に直面しながら『凡てのこと相働きて益となる』と己を励ました御言葉です。まさに「霊の思い」を貫いた（生きた）お父さん、私たちを見守ってください。



マリヤ館大規模内装工事

二〇二三年度末より、マリヤ館二号館・三号館共用部分の内装更新工事を行いました。

経年劣化でかなり傷んでいた階段室・各階の廊下及び談話スペースの壁紙の張替えと、木枠部分とテーブルの再塗装を行いました。

当初、壁紙の張替えで済む予定でしたが工事を始めてみると、壁紙下の壁材に腐食・建物自体のひび割れ部分の雨水漏水部が発見され、その全てを補修する大工事になりました。

工事も無事に終了し、居住される方々が、気持ちよく生活できる空間を維持できるよう、職員一同邁進してまいります。



新生会後援会懇親会

四月一三日(土)に新生会後援会の役員の方々と新生会施設代表者との懇親会が開催されました。原正男前理事長の提案で、イースター後の桜の時期に毎年集い、懇談のひと時をもっていきます。

新生会後援会は、中山隆祐氏の提唱により「外野席応援団」として一九六三年に発足しました。以来、六一年間新生会の働きを応援し続けています。

懇親会当日は、新生会の鈴木育三常務理事の開会祈祷、原慶子理事長、中澤宏則後援会会長の挨拶に始まり、ご出席の後援会役員の方々からは、新生会へ心温まるエールのご挨拶が送られました。施設代表者の皆さまからは近況をお知らせし、和やかな会となりました。



ウエルカムセンターの満開の桜木の下で

碓原高原邑親睦会

碓原高原邑では、毎年GWに邑民の親睦を図るために住人の方のお庭を会場にガーデンパーティが催されており、今年もコロナ禍の中止を経て完全復活。五〇名を超える方々の参加となりました。



パーティでは、邑の世話人会の皆さん主催で料理や飲み物が準備され、新緑の自然に包まれた開放感の中、美味しくいただきました。イベントとしては、碓原高原邑の「四季と暮らし」「ホームページ」「思い出のアルバム」等の映像を共有したり、子供向けとしては恒例の「カブトムシの幼虫探し」を行ったり、ご家族三世代が「碓原の魅力」を満喫する一日となりました。



カブトムシの幼虫捕れたよ!

NPO法人むらまち三世代

五月の連休に、NPO法人むらまち三世代が榛名高原邑にて開催した親子自然体験教室の宿泊地に心泉の家を利用されました。この団体は「地域間交流と三世代交流により、美しい日本の環境と豊かな社会を残したい」を理念に活動されており、掲載した写真のように、三世代が同じ時間と空間の中で過ごすという体験は、各世代それぞれにとって貴重な体験になりますし、皆さんが楽しそうですよね。掘ったすぐのタケノコは、甘く感じて美味しいんですよね、これを機にタケノコ好きになるかもしれませんね。



タケノコ掘り



フォローアップ研修

二〇二四年度のフォローアップ研修が、五月一四日に実施されました。この研修も今年で四回目となります。新任者研修を経て、実際に働き始めた皆さん。机上の知識だけではなく、実務を伴って見えてくるものや、思いなども多くあると思います。そんな日々の気づきを、施設における上下ではなく、同期の横のつながりの中で、共有していく時間となりました。

新鮮な思いや、率直な考えなど、他者の理解と、自己を振り返る時間。今後のより良き働きとなる、動機と機会を得られたら何よりです。皆さんの活躍に期待と、それに負けない、自分たちの取り組み。大事にしていきたいですね。



梅もぎ

新生会ではこの時期になると、各施設から職員が集まり、梅もぎを盛大に行います。榛名の梅は、箕郷、秋間と合わせて群馬の三大梅林の一つとして数えられており、その梅林の規模は東日本一と言われています。天候に恵まれた今回の梅もぎは、初参加となる恵泉園の杉山修一園長を始め、フレッシュな職員も数多く参加しました。「梅は昔、青いダイヤって言われていたのよ!」「そうなんですか!!」ベテラン職員とのさりげない会話が見受けられ、まさに施設の垣根を越えたチーム新生会としての交流の場となりました。収穫量は例年と比べて少量でしたが職員間の交流は例年以上の豊作となりました。

選果も大切な職員交流の場です



選果も大切な職員交流の場です

共愛学園花の日訪問

六月の第二日曜日は花の日です。花の日とはキリスト教の行事の一つで、花も人も神様から与えられ、守られ、愛されて育ってきたことを感謝する日です。六月五日に花の日礼拝を終えてから、共愛学園高等学校の生徒さんたちが新生会へ訪問してくださいました。

四年ぶりの再開となった今年は、聖歌隊の桜が丘への訪問以外にも、ジョージが丘と榛名春光園へも訪問してください、総勢一〇〇名近い生徒さんの来会となりました。

桜が丘では聖歌隊の皆さんの美しい歌声を披露してくださいました。後で、メッセージカードと花束をプレゼントしてください、心豊かなひとときを過ごすことができました。



記事のご紹介 （「上毛新聞」より）

この度、「令和六年度群馬県総合表彰」の受賞者が五月三日付で発表され、狩野俊郎理事が受賞されました。おめでとございます。

県私立学校審議会
委員
狩野 俊郎さん
（私学教育）



活発な審議貢献

民間企業勤務を経て
学校法人理事や短大
長、県中小企業診断士
協会専務理事などを務
めた。2012年に審
議会委員に就任した。
これまでの幅広い経験
を生かした発言を通
じ、活発な審議に貢献
している。

ホームアクト

介護付有料老人ホーム
新生の園

春のバスハイク

五月二十九日、当日は暑いくらいの気候でしたが、晴天に恵まれて絶好のバスハイク日和でした。

まず最初に前橋にあるホテルサンダーソンの中の「天津楼 葉々久」で昼食。開店と同時に満席になり、「人気のお店なんだね」と事前に予約した飲茶、海老チリセツトなどの本格中華料理を堪能。サラダ、メインもボリユームがあり、食べきれないのでないかとの心配をよそに居住者の皆様もほとんど完食されていました。お食事はもちろん、ホテルの最上階のレストランということで絶景も楽しむことができ、県庁に利根川、晴れていたので赤城などの山々も望むことができました。



美味しかったです！

ホテルを後にし、次は「敷島公園 門倉テクノばら園」に向かいました。バスを降り、入園して歩いていくと、

バラのとても良い香りがふわりとしてきました。ばら園のバラの種類が多さにも驚きました。約六〇〇種類のバラを鑑賞し、全員でバラのソフトクリームを食べました。ほんのりとバラの香が口の中に広がり、皆さん美味しくいただきました。その後は園内を散策しながら「素敵ね、綺麗ね」とすっかりバラに心奪われていらっしやいました。



とてもきれいなバラでした♪

楽しい時間はあっという間に過ぎてしまいました。美しい景色に、皆さんリフレッシュできたのではないのでしょうか。
(奥原智恵)

健康型有料老人ホーム

マリヤ館

春のバスハイク

高崎市タワー美術館

二〇二四年の梅香ハイツのバスハイクは、高崎駅東口にある高崎市タワー美術館の企画展に行ってみました。

企画展の内容は、「菅原道真公 一二五年 太宰府天満宮式年大祭 記念 神戸智行一千年を描く」という企画で、「二〇二七年の太宰府天満宮式年大祭に際して奉納される、襖絵二四面を描き上げた神戸智行の画業をご紹介します。襖絵に仕立てる前の本襖絵を全国に先駆けて展覧するとともに、太宰府天満宮が収集してきた作品や老舗和菓子店「鈴懸」の掛け紙原画など、神戸作品の多彩な魅力に迫ります。」というものです。

高崎市タワー美術館を皮切りに全国三か所で公開されたのち、太宰府天満宮に奉納され、その後は一般公開されない襖絵を、この機会にぜひ見たいと居住者の方からリクエストがあり、春のバスハイクで行くことになりました。

バスハイク自体は、午前中は高崎市タワー美術館を巡り、昼食を高崎駅周辺で自由に好きなお店に行つて

頂き、午後は、高島屋やオーパ等、高崎駅周辺でのお買い物を楽しんでいただきました。

当日は若干の雨模様でしたが、昼食のころには雨も上がり、みなさま、存分にお買い物を楽しまれました。



高崎市タワー美術館にて

帰りのバスの中はもちろん、マリヤ館に帰ってから、太宰府天満宮奉納の襖絵の話でもちきりで、今回のバスハイクでは都合が合わず行けなかった方で、ご自身でお出かけになった方もいらっしやいました。

マリヤ館の企画として、今後も大小様々なお出かけ企画をし、お買い物・グルメ・文化活動の充実を図っていきます。
(原 孝洋)

介護付有料老人ホーム
穂和の園・桜の園

バスハイク

恒例、春のバスハイクに出かけてきました。まずは、「軽井沢千住博美術館」に立ち寄ります。建築家・西沢立衛による、美しい樹木や花々に囲まれた流線フォルムの美術館。自然の光が注ぐ館内は、世界で活躍する日本画家・千住博の作品達が静謐な空間で存在感を際立たせていました。特に氏の代表作である滝の絵画とプロジェクトンマッピングを使用した映像作品は厳かなひと時を味わえます。

お昼は「かまど炊きご飯の御厨」さんです。田舎の旧家風な建物に、庭の池に住んでいる？カルガモ親子がお出迎えです。皆さん好きな御膳やおそばを注文。お味も好評のよ



浅野屋（パン屋）もあります

うでした。ご飯は御櫃に入ってきて、おこげも風味が良いです。野沢菜の天ぶらがシャキッとした食感が残りつつ、何もつけずとも、そのままの塩味で美味。初めて食べました。



ウキウキ ランチタイム

食後は「ツルヤ」にてお買い物です。普段のお店と違うと、目新しく、目を引くものばかりです。大量に買い込む方に、ご親類へ送られる方など、人それぞれの過ごし方ですが、皆さん、満喫された様子です。

お天気は崩れる予報で、少し心配でしたが、雨に降られることなく、暑過ぎずに程よい陽気の中、お出かけできました。車中でも藤やアヤメと様々なお花を眺めることができ、楽しい小旅行となりました。

（中澤一夫）

介護付有料老人ホーム
恵泉園

一步一步

今年例年になく梅雨入りが遅く、梅雨入り前にも関わらず三〇度を超える日がありました。こんな状態で梅雨が明けるとどうなってしまうのか、今から恐ろしく思います。そんな暑い日をかいくぐって、恵泉園では時折散歩に出かけています。

快晴に恵まれたとある日、散歩に行こうと思いついた職員が、数名の居住者の方を引き連れて外に繰り出しました。この時期は咲いている花が少なく、目的は自然と紫陽花が咲き始める場所に足が向かいます。道中は上り坂になっていて、職員でも一苦労。ぜいぜいと息が上がりはじめたあたりで目的地まで登頂。苦労して辿り着いたこともあり、喜びもひとしおです。



一歩ずつ

春は恵泉園の北側に咲く桜を、夏は新緑が美しいマリヤの森を、秋は新生の園の南側にあるもみじを、冬の深々とした日はお休みして。一年を通して、さまざまな景色をお楽しみいただけるジョージが丘。ぜひみなさまもジョージが丘にご用の際は、お帰りの前にぐるっと一周してみたいかがでしょうか。四季折々の出会いと発見が待っていますよ。



笑顔満開です

歩き出しはゆっくりかもしれませんが。たまには躓き転がつて立ち止まることもあるかもしれません。それでも一歩ずつ着実に、道なき道に向けて歩みを進めていきます。

（新井溪司）

軽費老人ホーム
バルナバ館

初夏のバスハイク

六月一日、三年ぶりのバルナバ館バスハイクに出掛けました。

行先は中之条ガーデンズと八ッ場ふるさと館道の駅。中之条ガーデンズに行くならこの時期が一番と企画。一七名の方が、参加して下さいました。

気になるのはお天気。祈り虚しく当日の朝は雨でした。ですが、目的地が近づくにつれ雨はやみ、雲は多めながら晴れてきました。

中之条ガーデンズはバラだけでも四〇〇種類を越え他の植物の花も数多く咲いているので魅了されます。庭園を管理されている方のお話では、今年は花の当たり年で、花摘みが間に合わないとのことでした。普段からの手入れがされているからこそきれいに咲くのだと思います。皆さんも喜んでいました。次に向かったのは八ッ場ふるさと館道の駅。



バラの花、いろいろ

バスでの移動途中、また雨に降られヤキモキしましたが、到着する頃には雨はやみ、晴れてきました。各々、昼食や買い物を楽しまれました。

残りの時間はドライブです。令和七年全線開通予定の上信自動車道で厚田まで行き、そこから榛名湖へ向かいました。榛名富士を見ながら湖を一周することを予定していましたが、あたり一面霧の世界で、初めて訪れる方にお見せしかなかった風景はまたの機会とさせて頂きました。

六月一日は「時(とき)の記念日」とのことです。短い時間ではありましたが、今回参加して下さいました皆さんにとって思い出に残る一日となつていただけたら嬉しいです。

(一場寿子)



中之条ガーデンズにて

軽費老人ホームA型
榛名春光園

春のイベント祭り

春光園では、全員の居住者に春を満喫していただきたい！その想いで開催されたのがこのイベント祭り。その全貌を紹介させていただきます。

第一弾は、榛名湖温泉ゆうすげツアー。温泉に入って美味しいお料理。そして定番となりつつあるビンゴ大会では一喜一憂大盛り上がりでした。

第二弾は、ミステリーツアーです。ビンゴ大会で見事当選された方は県庁や喫茶店へレッツゴー。現地ではなんと群馬県知事や高崎市長とお会いし、最高の思い出となりました。

第三弾は、キッチンカーでたこ焼き屋さん来店です。春光園の居住者のみならず、新生会の居住者や職員、地域住民も来店され熱々のたこ焼きをハフハフ頬張っております。



個性豊かな職員も春光園の魅力！



いくつになっても青春時代！

第四弾は毎年恒例のバーベキュー大会。準備や片付け含め、その時間帯だけ雨が止むという奇跡的な天候の中、良質なお肉とお魚を炭火で焼き上げました。余興では、新任職員の紹介があり、パフォーマンスとして篠笛を披露する一幕もありました。第五弾は新潟県にある苗場ドラゴンドラヘバスハイク。二五分間の空中散歩に大興奮。マイナスイオンに癒された参加者は、お土産をどっさりと購入し笑顔で帰路に着きました。全ての行事で天候に恵まれたことは、春光園の日々の良き働きを見て神様が味方に付いてくれたからと言えるでしょう。今後も居住者全員に「幸せ」が届けられるよう魅力的な行事を企画していきます！皆さん！どうぞご期待くださいね。

(長坂直哉)

特別養護老人ホーム

榛名憩の園

花より氷菓

榛名憩の園では、三月末日から発生した新型コロナウイルスによるクラスター感染を乗り越え、日に日に外出欲が高まっています。そんな中、鼻高展望花の丘で「菜の花祭り」が開催されるとの報せを受け、いざ出発。目的地に到着すると、菜の花をはじめ、彩り豊かな花々がお出迎え。特に目を奪われたのは、丘一面に咲いていたネモフィラです。晴天も相まって、まさに上下見渡す限りの青の世界を堪能することが出来ました。また、外出といえばご当地の甘味も楽しみの一つ。四月末日であるにも関わらず、当時の気温は二十五℃。近場の牧場仕立てのジェラートは、並ぶ価値ありの絶品でした。心なしか居住者の皆様も花より氷菓に目がない様子。久しぶりの外出でしたが、やはり食に勝るものは中々見つかりませんね。（沼崎翔平）



まさに青の世界

園芸くらぶの梅仕事

六月初旬、新生会で収穫された青梅を使って、梅シロップ作りをしました。青梅の爽やかな香りが季節を感じさせてくれます。「昔は良く作ってたよ」と懐かしそうに話す人も。まずは皆で布巾を使い、一つ一つ丁寧に拭いて、なり口を取ります。箆に並んだ梅を見て「三キロ」と重量を当てたSさん、さすがです。次は梅割りです。梅割り器に実を一粒つまんで挟む人、棒を押す人と、二人一組で協力しながら息を合わせて行きます。「私の手をつぶさないでネ!」「大丈夫ヨ!」と笑いながら、次々と割った梅をハリットルの瓶に放り込みます。カラカラと氷砂糖を加えれば、青梅の緑と白い層が、何とも言えず涼やかです。「お酒は入らないのかい?」というちよっぴり残念そうな心の声も聞こえましたが…。参加者の皆さんのにこやかな表情から達成感がうかがえて、清々しい空気ではばいのひとときでした。（荻野育子）



おいしくなーれ♪

特別養護老人ホーム

誠の園

誠の園的アポロ計画

『今年はどこに行くんだ?!』『何を食べに行くんだ?!』そんなご意見を伺いながら、今回のバスハイキングは…。埼玉県坂戸市にある「明治なるほどファクトリー坂戸」へ工場見学に行ってきました。そう、あのチョコを作っているのは全国でここだけなんですって。楽しみですね♪さて、恒例となっている車内はチョコレートを溶かすほどの熱気。平均年齢九〇歳オーバーの参加者たちの瞳はカカオの如く輝きに満ちていました。今回もご家族、ボランティア、法人スタッフの皆様方他に大変お世話になりました。また、毎回運転をお願いしている小坂橋さんは参加者界限ではもうお馴染みです。



あのカールおじさんと!

そんなこんなで工場見学の始まりです。「明治」の歴史を学んだあとは、あの三角形でお馴染みのアポロチョコレートの製造ラインを見学。

「一粒は小さいが、チョコ界にとっては大きいんだ」なんて誰かが言ったとか言わなかったとか。しっかりと土産を頂いて工場を後に…。

その後はウナギの名店「大穀」で贅沢ランチ。注文したのはもちろん「天井とうどんのランチ」。これがいんだよ!と、想像以上のボリュームも相まってとってもおいしかったです♪

最年長九九才が参加したバスハイキング。幾つになってもお出かけを楽しめるなんて素敵ですね。

（小野沢剛昌）



量でお食事うれしいな

特別養護老人ホーム
エンジェルホーム

父の日・母の日茶話会

今年もエンジェルホームのデイルームには、カーネーションやバラなど色あざやかな花が、原田ケアワーカーによって飾られました。

居住者の乾杯の声と共に会が始まります。今回のスイーツは、プレミアムアイスクリーム。「なかなか食べられないから久しぶりでおいしかったよ」と、皆さま揃って食べ終えるのが早かったようです。

アトラクションは、四月に新たに私たちの仲間になった今泉ケアワーカーが、学生時代に経験のあるトランプペットを披露してくれました。曲は皆さまよくご存じの坂本九さんの『上を向いて歩こう』です。普段は聞くことのできないトランプペットの生演奏に、いつもは静かに過ごされている方が、笑顔で手拍子をして、大きな声で歌い始めたのには、職員



生演奏に感激♪



エビ〜♪カニ〜♪

一同とても驚きました。つづいて、信澤ケアワーカーのギターも加わって、素晴らしい二人の演奏を聞きながら歌うことができ、皆さま大興奮でした。

次にエビカニクスの曲が流れると、女性三人組が手作りの衣装で登場です。テンポの良い踊りで、体を大きく動かし、カニのポーズ、エビのポーズをすると、他の職員たちも一緒に踊って場を盛り上げます。

そして最後は、自己紹介と、質問コーナーです。この際だから気になることを聞いた方もいましたが、コンプレックスに厳しい昨今、その質問はNGですよ。なんてこともあったり…大盛況のうちに、会は無事に幕を閉じることができました。
(塚越亜由美)

HALC自然学校

お出かけ自然体験&意見交換会

四月一七日(水)と四月一九日(金)に高崎市にある観音山ファミリアパークとユネスコ世界の記憶に登録されている上野三碑を巡りました。バスは新幹線からも見える高崎観音がある尾根を走り、新緑が爽やかな「少林山だるま寺」に立ち寄り、目的地の「群馬県立観音山ファミリアパーク」へ到着。パーク内では、自然の森を散策し、展望台に上り秩父方面の山々を眺める方もいました。



自然の森の中へ



多胡碑の説明を熱心に聞き入る

午後はバスで一〇分程度移動して多胡碑記念館で現地職員さんのガイドの下見学しました。記念館の外にある実物の多胡碑を見学し、その後金井沢碑に移動して現地ガイドさんの熱心な解説に日本の石碑文化の歴史の奥深さを知ることができました。

五月一七日(金)の午後は心泉の家にて会員参加一九名とスタッフ四名による「意見交換会」が行われました。はるかな自然体験クラブの活動は新生会周辺の植物や野鳥などを観察する「お散歩自然観察会」や二か月に一度バスでお出かけするエコーツアー「お出かけ自然体験」が主ですが、企画する職員と参加される会員が自由な雰囲気の中で話し合いの時を持つことでお互いの思いや健康状態の認識を共有して、理解を深め合う機会になればと企画しました。

今回の主なテーマは、お出かけ自然体験の際の散策コースの距離や歩く時間についてと昼食についてです。今までは行先や時間に合わせて運営サイドで組み合わせる方法を採用してきました。今回の意見交換会でこの考え方に賛同してくださる意見が多かったように感じました。



笑顔の意見交換会

添う職員も楽しめるプログラムを考えていきたいと思えます。
(稲垣 仁)

あんしんセンター新生会

認知症カフェで広がる交流の輪

認知症カフェとは「認知症の方と家族、地域住民、専門職の誰もが参加出来る集いの場（厚生労働省）」であり、認知症の方やそのご家族を支援する取り組みの一つとされています。

認知症の方の社会参加、認知症理解の促進、情報交換の場として現在市内に四〇箇所以上の認知症カフェがあります。参加出来る方は当事者である認知症の方はもちろん、ご家族、地域の方等、認知症の有無に関係なく、どなたでも参加することが出来ます。名称は「オレンジカフェ」等様々ですが、目的・対象者は同じです。

榛名の地域でも高齢者あんしんセンター新生会・はるなの合同で「オレンジカフェ」という名称で、毎月一回榛名福祉会館で開催しています。参加費はお茶代・お菓子代として一人一〇〇円。内容は主に外部の専門職による講話、工作や脳トレ等のレクリエーション、語り合いを行なっています。

講話は薬剤師や理学療法士、歯科衛生士による介護予防や認知症に関する講話、高崎市保健課による健康

講話や感染症対策、地域交通課による交通安全教室等、多岐に渡っています。参加者はもちろんオレンジカフェを開催する我々センター職員にとっても貴重な講話内容であり、専門的知識の定着にも繋がっています。

レクリエーションについても手先を使う工作や脳トレが認知症予防に使われています。参加者の皆さんからは「いつもためになる講話を聞かせてくれてありがとう。」「もともとカフェを開催してほしい。」等の言葉

今後オレンジカフェを開催する上で、単に認知症理解の促進、介護予防、集いの場等の機能だけでなく、榛名地域の現状を踏まえ、地域住民が何を求めているのか、高齢者あんしんセンターの立場・役割を意識し、地域住民の声に応えられるよう取り組んでいきたいと思えます。
(手塚勝洋)



実生活に直結する講話が売りです!!

法人本部

リクルート委員会始動

昨今様々な業種で人材不足が叫ばれてますが、新生会も例外なく人材獲得に躍起です。これまでと同じことをしていても人は来ない！と、今年度から委員会を発足させ、法人内の若手を中心に活動しています。毎月メンバーで会議を行い、どんな山から下りて新生会の魅力を発信していこう！どうすれば新生会のことを知っていただけるか？ケアの仕事って実はこんな魅力があるよ！などInstagramを使って積極的な広報活動も行っています。

外部の有識者の意見も聞きながら、イマドキのアプローチでトレンドを外しません。活動を通して『一人でも多くの方に新生会にお越しいただき、共に働く仲間と出会いたい』。そんな想いで若手が頑張っているんです。是非！近くの方、遠くの方までこのQRコードを拡散してください。フォローが増えることで委員のモチベーションが上がります！



委員会の活動はそれだけではありません。リクルートパンフレットの製作やノベルティグッズの検討もいろいろ、若手職員自らが県内の福祉系大学へ訪問したり、出前講座を開催したり。夏にはリクルート委員会主催のイベントの開催なども予定しています。

とにかく県内外の学生さんに新生会の魅力を知っていただき、直接足を運んでいただくことでその雰囲気を感じてもらいたい。メンバーも楽しみながら活動を行っています。

今年度新たに始動した「リクルート委員会」どうぞよろしくお願いたします！
(小野沢剛昌)



こかげ

新 生会 人 紹介

- ①出身地 ②職種 ③趣味・特技
- ④好きな有名人 ⑤自分にとって一番の贅沢は ⑥好きな言葉

恵 泉 園



永井 隆史 (ナガイ タカシ) 36

- ①高崎市
- ②ケアワーカー
- ③散歩
- ④長澤まさみ
- ⑤牛肉ステーキ
- ⑥笑顔

誠 の 園



清水優美子 (シミズ ユミコ) 64

- ①高崎市
- ②ケアワーカー
- ③ドライブ
- ④明石家さんま
- ⑤旅行
- ⑥ありがとう

穂 和 の 園



高橋由香里 (タカハシ ユカリ) 44

- ①吾妻郡東吾妻町
- ②ケアワーカー
- ③スポーツ観戦(野球・サッカー・バレー)、パン屋巡り
- ④伊東純也、キムソクジン
- ⑤マッサージに行くこと
- ⑥笑いは百薬の長

「県総合表彰」受賞 鈴木 義人さん



令和六年度「県総合表彰」の表彰式が六月十五日、前橋市の群馬会館で開かれ、この度、特別養護老人ホーム「榛名憩の園」鈴木義人ケアワーカーが受賞されました。受賞者は多年にわたり、それぞれの分野において公共福祉のため献身的にご尽力された方(団体)が対象です。地方自治や消防防災、福祉など二三分野の一二四人と二団体。大変栄誉ある賞を受けました。

一九八八年五月九日、社会福祉法人新生会に入職してから三六年の歳月が経ちました。三六年。これだけ長く働いたのは、苦楽を共にしてきた仲間がいるからこそと開口一番に鈴木義人ケアワーカーはおっしゃる。「周りの人に助けられやっつけてくれた。一人じゃできない仕事だからね」普通の事を普通にこなして、居住者の方にやすらぎを与える、必要な時にそっと手を差し伸べる、そ

んな自然体な関わり方はまさにプロフェッショナル。他の職員に仕事をりを問うと、「他の職員では対応の難しい居住者の方も、鈴木さんの一声で素直に応じて下さり、人柄と丁寧な関りがあるからこそできる職人技」との事です。

自宅に帰れば奥様と娘様を溺愛する優しい父。今回の授賞式にもしっかり奥様がお隣に寄り添っていまし

新生の園でサブチーフとして活躍する小暮将弘さん。居住者に寄り添う彼の笑顔と優しさは癒しそのもの。同僚からも頼れる男として絶大な信頼を得ている。プライベートでは、二年前に結婚し、一児のパパに。家庭でも「サブチーフ」の役割を果たし、妻からの信頼も厚い。



新生の園
サブチーフ
小暮 将弘さん

新生会野球部に所属し、阪神タイガースをこよなく愛する彼であるが、実を言うと趣味は各地のラーメン店巡り。ラーメンを愛するが故、自宅で本格的に作ってしまうのが凄いと。こだわりのスープは出汁から取り、とろけてしまうチャーシューは前日から手仕込み。麺の盛

もうひとりの私¹²⁷

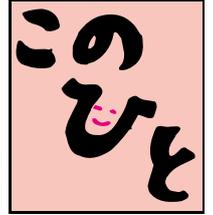
た。日頃の奥様の献身的なサポートがあるからこそ成し遂げられた偉業なのでしょう。

これからは担う後輩職員に対して、「若い人が働きやすいように、長く続けられるように気張らずにやっつけて欲しい。一人じゃないから、皆で一緒に協力してやっつけていこう」と応援の言葉をいただきました。

り付けまで完璧に仕上げ、セットでご飯物も忘れずに。ませそば、ラーメン、つけ麺、僕イケメン…と、日々ラーメンへの探究心、愛と情熱を注ぐ姿は、まさに新生の園の狩野英孝である。

また、音楽も趣味の一つで、ライブに足を運び声援を送る姿はまさに情熱的。自身でも誕生日会やイベントでそのNIZI色の声を披露している。しかし、小暮さんにも弱点が。それは絵を描くこと。愛娘に青い猫型ロボットの絵を描いたところ、その出来栄えに大泣きされてしまったそう。以降、人前で絵を描くことは避けているようである。

新生の園では頼れるサブチーフ、家庭では愛情深い夫で父親、そして趣味の世界では情熱的なラーメン・音楽通。おまけにスポーツ万能。小暮将弘さんの多彩な魅力は、これからも多くの人々を惹きつけてやまないだろう。



マリヤ館
渡瀬 昭治さん
(九〇歳)



一九三三年に大森で生まれ、戦中戦後の混乱期を除きその近辺で過ごしました。未熟児で生まれ小さかったため、普通の入学試験のある学校では無理だろうと両親が判断され、大学までの一貫校に進みました。小学入学時は身体の弱い少年でしたが、運動会の徒競走では一番になるなど運動神経は良い子どもでした。小学校の高学年になる頃には健康優良児になり、高校、大学時代は屋外のスポーツに明け暮れ野球・テニス・スキー・山登りなど楽しみました。

大学三年生の秋にお姉さんが婚約者の叔父の家に行くというので一緒に行った所、運命の人との出会いが待っていました。奥様となる安子様が同席されていて一目ぼれしてしまいました。そこから猛アタックを開始しますが安子様は氷川丸に乗って留学してしまい、四年後の秋に無事結婚する事ができました。結婚当初は「僕とキリスト教とどっちが大事」などと言った事もありましたが、結婚一五周年の記念日に挙式を上げた教会に挨拶に伺うと、牧師さんの顔が自分の周りの人と違っていたことに興味を持たれ教会に通うようになりました。初めは消化不良の信徒で

したが、神様が何時も隣に居て支えて下さっている事が実感出来るようになりハレルヤな毎日を送っています。

昭和三十一年に大学を卒業され総合化学工業の会社に入社し富山工場に配属になりました。当初背が低く小柄な経理員とバカにされていましたが、会社の相撲大会で力自慢の大男達を次々に投げ飛ばし優勝した事で、その後は一目置かれる存在になりました。欧米に追い付け追い越せとひたすら坂道を駆け上がり、家庭の事や育児に両親の介護も全て奥様任せで働きました。最後はスイスの合併会社の責任者を務め、忙しく働きましたが良い思い出ばかりの四〇年でした。

新生会との出会いは安子様がリンパ腫を患いましたが一時的寛解となった時に恩師から「バルナバはいわよ、貴方もいらっしやい」と言われた事を思い出し見学に訪れ、即日入居を決められ八年になりました。職員が朗らかで家族のように親身になって対応してくれるので、ここを終の棲家にして本当に良かったと言っていた良かったです。

今は榛名荘病院に入院しています。二人の息子さんを買ってくれたiPadで毎日安子様や息子さん、マリヤ館やバルナバ館の友人とラインで情報交換しながら、至れり尽くせりの看護を受けて楽しく感謝してハレルヤで毎日を過ごしておられました。七月一〇日に召天されました。梅香ハイツマリヤ館を終の棲家を選んで頂きありがとうございます。心よりご冥福をお祈り致します。



共愛学園高等学校 教諭

日川 千恵先生



『自分の存在が皆に愛されている』生徒たちにこれをきちんと教えていきたい。こう語ってくくださったのは共愛学園高等学校の日川千恵先生。

日川先生と新生会のつながりは遡ること数十年前。ボランティア団体VACのメンバーとして、新生会へ毎年訪れてくださった頃からのご縁となります。

高校二年生であった彼女は、教会で新生会でのボランティア活動の案内を発見。意気揚々と参加するも現実は、役に立つどころか迷惑をかけたばかりの苦い体験でした。落ち込む彼女に新生会ホームに住まわれる居住者の方から、「あなたがそばにいてくれてありがとう」と言葉をかけられたそうです。その言葉に涙が溢れ、心動かされたことが今のご自身の礎になっているそうです。

大学生になるとVACの事務局スタッフとして、後輩の面倒をみる立場になりました。その経験から自分はいったい仕事をずっとしていきたいという思いが強くなったそうです。しかし音楽の教員は募集も少な

く難しいのではと悩んでいた彼女に、当時のVAC代表であった杉山修一先生（現恵泉園園長）から、「常に関心を持って難しい選択をしない」との助言に背中を押され、教諭の道を目指すことを決意したそうです。

一〇年近くクラス担任を離れ、音楽を教える傍らで教育相談部の主任として生徒の悩みを受けとめる役割を担った経験から、クラス担任の時とは違い、生徒個々として向き合う時間を与えられたことで、自身の教育に対する考え方にも変化が生じたそうです。「教育は指導よりも生徒自らに興味を持たせ、自分事と捉え学習していくことが大事。そこに周りを巻き込むことで新しい自分に出会うこともできる。それが楽しいということを生徒に伝えたいと常に考えています。」と先生は語りま

す。「自分の存在自体が愛されている」日川先生はそれを自覚することで強いパワーを感じるそうです。ご自身の学生時代に経験したことが軸となり、生徒とも常に明るくフレンドリーに接しているその姿は、「生徒一人一人の存在を愛する」素敵な教育実践者でした。

文 芸

春光ギャラリ



バラ



ジャーマンアイリス



右 安藤 美子 (あんど う よしこ)
左 桐山 敬子 (きりやま けいこ)



二ホンスズラン



開園記念祝会 生け花



ポピー

椿名春光園では、居住者の方が育てられた四季折々の花々をパブリックスペースにて飾っています。今回は、その作品の一部をご紹介します。今回いただきます。みなさまも春光園へお越しの際は、ご覧になってみてはいかがでしょうか。

詩 歌

夏三段 笠井 昭次

青き葉の私語を伝える初夏の風
夏空や雲の落書き奔放に
斑なす木漏れ日猛夏の昼

オーサム

長崎で「メサイア」を聴き励まされる
キリシタン迫害を受け今日がある
十才の少年が皆和ませる
長老よ百才を越え証せよ



ケアに生きる (153回)
恵泉園 ソーシャルワーカー 新井 溪司

かな優しさに触れ、憧れを抱くようになり、福祉の道に進むことにしました。そんな私が新生会の門を叩いて早五年。振り返れば激動の五年間でした。新生会との出会いは、大学時代の誠の園での相談援助実習でした。実習をする中

私と福祉のつながりは、中学時代の祖父の死まで遡ります。ターミナルケアを受けていた祖父や私たち家族に対して、ソーシャルワーカーの方が寄り添って、親身になって話を聞いてくださったこと。そして、その温

で、「誓いの言葉」や新生会の理念に触れ、ここであれば自分自身の成長につながると確信した私は、就職することを決意しました。そして、恵泉園のケアワーカーとして三年務めたのち、同施設のソーシャルワーカーに異動。その後介護老人ホームから有料老人ホームへの転換時期に携わるなど、この五年間だけでさまざまな出来事がありました。忙しい日々の中でも忘れないうようにしていることがあります。それは、ひとつひとつのつながりを大切にすることです。居住者の方々やそのご家族、そして周りの職員が支えて下さり、今の私があると思います。これからもひとつひとつのつながりに感謝しながら、日々の出合いを大切に、心に寄り添ったケアに励んでいきます。

マリヤ シュガー

神さまに与えられし物ひとつずつ
お返しして律儀な君よ
天翔けて神の国へと向かう君
無事を祈りて空を見上げる
寂しきは波のように押し寄せる
寄せて返して時に怒涛に

福田絢晴

万緑やパワーを授けし椿名社
天狗やま大きな入道背負いけり

新生日誌

（4月）

- 1日 新入職員辞令交付式
- 4日 はるな自然体験クラブ お散
- 11日 歩自然観察会 9名参加
- 13日 睦会第一回総会
- 17日 新生会後援会・新生会施設代表者懇親会
- 19日 はるな自然体験クラブ お出
- 25日 かけ自然体験「高崎少林山だるま寺、県立観音山ファミリアパーク、上野三碑」15名参加
- 27日 はるな自然体験クラブ お散
- 28日 歩自然観察会 3名参加
- 29日 桜が丘三ホーム開園27周年記念日
- 30日 新任職員フォローアップ研修会
- 31日 職員採用試験
- 36日 はるな自然体験クラブ お散
- 37日 歩自然観察会
- 38日 午前部・9名参加
- 39日 職員定期健康診断
- 40日 はるな自然体験クラブ お散
- 41日 歩自然観察会
- 42日 午前部・4名参加
- 43日 午後部・1名参加
- 44日 令和7年3月新規学校予定者

（5月）

- 1日 採用予定の事業者向け求人説明会（Gメッセ群馬 1名出席）
- 28日 職員採用試験
- 29日 職員採用試験
- 30日 梅の収穫
- 31日 社会福祉経営トオプセミナー2024 ウィンクあいち（愛知県産業労働センター1名出席）
- 31日 新生会監事監査
- 31日 はるな自然体験クラブ お散
- 31日 歩自然観察会
- 31日 午前部・7名参加
- 1日 高校生のための合同企業説明会（Gメッセ群馬 2名出席）
- 5日 共愛学園花の日訪問受入れ
- 7日 はるな自然体験クラブ お散
- 10日 歩自然観察会
- 10日 午前部・3名参加
- 10日 午後部・3名参加
- 10日 第二回理事会
- 10日 ジョージが丘三ホーム開園36周年記念日

（6月）

- 12日 職員募集リーフレット写真撮影
- 13日 はるな自然体験クラブ お散
- 20日 歩自然観察会
- 21日 午前部・6名参加
- 21日 午後部・3名参加
- 21日 神泉の井戸感謝の集い
- 21日 はるな自然体験クラブ お散
- 23日 歩自然観察会
- 23日 午前部・2名参加
- 23日 榛名春光園開園63周年記念日
- 23日 第一回定時評議員会
- 23日 第三回理事会
- 26日 パラマウントベッド株式会社主催ウェビナー配信「見守り支援システムを活用した民間企業による有料ホームの経営改善」1名参加
- 27日 はるな自然体験クラブ お散
- 27日 歩自然観察会
- 28日 午前部・5名参加
- 28日 21・老福連2024年度総会
- 28日 対面&ZOOM併用形式（豊橋市ロワジュール豊橋 1名出席）

外堅志援団

－新生会後援会便り－

盛夏の候、皆さまからの温かいご支援に感謝申し上げます。HALCコミュニティセンター建設のための特別募金に、引き続きご協力をお願い申し上げます。

HALCセンター建設のための特別募金累計 16,847,128円（2024年6月末日現在）

新生会後援会加入のご案内

- 個人会員 年間会費 1口 1,000円以上、毎年ご寄付して下さる方。
- 法人会員 年間会費 1口 10,000円以上、毎年ご寄付して下さる方。

募金の結果や使途につきましては小冊子「感謝録」にて毎年報告させていただきます。

寄付方法

郵便局からの振込み 振込口座 00160-6-48594
加入者名 新生会後援会

銀行からの振込み 群馬銀行室田支店普通預金0075469
名義 新生会後援会会長 中澤宏則

所得税等の減免手続きをご希望の方は、ご寄付くださる際にその旨を申し出てください。社会福祉法人新生会より寄付金領収書をお送り致します。

ホームページ <http://www.sinseikai.org/>
E-mail human-office@sinseikai.org

編集後記

今年は何年か比べ、あつという間に半年が過ぎた感じがします。何か足取りが早いように感じます。今年度は、恵泉園の新規事業をはじめ、リクルート委員会発足、ファミリースターキャンブ再開、学生ボランティア大勢と大賑わいです。風向きは明らかに変わっております。

新生会は故原正男名誉理事長の理念に則り、各施設の主が創造し、守り抜いてきた信念があります。やがて世代も交代し、新生会の理念は継承されつつ、新風を創造して行かなければいけない局面だと日々ひしひしと感じております。

一人では微風かも知れませんが、皆が知恵を絞り出し協力すれば強風にもなり得ます。これから何ができるのか、職員一人ひとり考え、意味のある有意義な仕事をこなして行きたいと考える今日この頃です。（下平友規）

表紙の写真

あじさい…バルナバ館脇にて

新生 第47巻 夏号
発行日 令和六年七月二〇日
編集兼 社会福祉法人新生会
発行人 原慶子
〒370-3347 群馬県高崎市
中室田町五九八三
電話 〇二七三七四 一五一一